

2025 年 5 月 15 日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

白血球数と分画を用いた免疫・炎症指数の進展型小細胞肺癌患者での予後予測における有用性の検討

2. 研究責任者

海南病院 呼吸器内科 第一呼吸器内科部長 中尾心人

3. 研究の概要

通常の診療において採血検査で測定できる白血球数と白血球分画は、初診時および治療開始の際などにルーティンで測定されている項目です。近年これらの採血項目で算出できる免疫・炎症に関わる指標が、癌患者さんにおける治療効果および予後予測のマーカーになるのではないかと多くの研究が多くされています。具体的には NLR(neutrophil-to-lymphocyte ratio)、NMR(neutrophil-to-monocyte ratio)、MLR(monocyte-to-lymphocyte ratio)、NWR(neutrophil-to-white blood cell ratio)、LWR(lymphocyte-to-white blood cell ratio)、MWR(monocyte-to-white blood cell ratio)、NER(neutrophil-to-eosinophil ratio)、LER(lymphocyte-to-eosinophil ratio)、MER(monocyte-to-eosinophil ratio)、ENLR(eosinophil neutrophil-to-lymphocytes ratio)、SIRI [systemic inflammation response index : 好中球数×(単球数/リンパ球数)]、IRR [inflammatory related ratio : (好中球数×単球数)÷(リンパ球数×好酸球数)]、dNLR [derived neutrophil-to-lymphocyte ratio : 好中球数÷(白血球数－好中球数)] といった指標です。しかし、化学療法を行った進展型小細胞肺癌患者さんでの白血球数とその分画のみを用いた指標の予後予測における有用性を重点的に検討した研究は少ないのが現状です。

そこで、当院で診断および治療を受けられた進展型小細胞肺癌患者さんの予後や1次治療の効果が、治療前の NLR、NMR、MLR、NWR、LWR、MWR、NER、LER、MER、ENLR、SIRI、IRR、dNLR の値と関連性があるか検討することを主目的とした、後方視的な臨床研究を行うことにしました。具体的に対象となるのは、2009 年から 2019 年の間に進展型小細胞肺癌と臨床診断され、プラチナ併用化学療法を受けられた患者さんです。白血球数と白血球分画は、通常の診療において施行される採血で既に測定されており、対象と

なった患者さんの背景や治療開始前後の臨床的特徴を後方視的に把握することは、新たな侵襲が生じず、今後の肺癌診療を行う際に有用な情報が得られるものと期待されます。

4. 研究方法

① 対象となる患者さん

2009 年 1 月から 2019 年 12 月の間に進展型小細胞肺癌と診断されプラチナ併用化学療法を行った患者さん。

② 使用する試料等

残余検体：使用しない。

カルテ情報：使用する。

カルテ情報から、治療開始時の患者背景や白血球数と白血球分画といった検査データ、および治療後の経過などを後方視的に抽出します。尚、データ収集は 2022 年 6 月 30 日時点でのデータを基準とします。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 呼吸器内科 中尾心人

電話：0567-65-2511（代表）